

1 開催日時

平成30年3月23日（金）午後1時30分から午後3時まで

2 開催場所

成田市役所議会棟3階 執行部控室

3 出席者

（委員）

藤江副会長，高木委員，長島委員，鈴木委員，萩原委員，吉田委員，宮前委員，以上7人

（欠席：山下会長，根本委員，角田委員 3人）

（生活支援コーディネーター）

医療法人社団 聖母会 中央地域包括支援センター（小野）

（事務局）

高田福祉部長

加瀬林高齢者福祉課長，平岡係長，渡未副主幹，越川主査

三橋介護保険課長，辻係長，市田主任主事

西部北地域包括支援センター（北村管理者）

西部南地域包括支援センター（大麻管理者）

中央地域包括支援センター（井上管理者）

東部地域包括支援センター（岩澤管理者）

4 会議次第

1 開会

2 あいさつ（福祉部長）

3 事務局職員紹介

4 議題

（1）地域包括支援センターの運営等に関する事

①平成30年度地域包括支援センター事業計画について

②指定介護予防支援業務・第一号介護予防支援事業の一部委託について

③地域包括支援センターの業務評価について

（2）地域密着型サービスの運営等に関する事

（3）その他

5 閉会

5 議事

(1) 地域包括支援センターの運営等に関すること

①平成30年度地域包括支援センター事業計画について

●副会長

議題(1)①について事務局から説明を。

○西部北, 中央, 西部南, 東部の順で資料に沿って説明。

○続いて, 行政としての地域包括支援センターの取組に対する支援について高齢者福祉課長から説明。

●副会長

質問は。

●委員

多岐に渡る計画内容であり, 「連携」, 「現場に出向く」といったキーワードが多いと感じたが, 受入れ側となる地域などの理解はどのような状況か。

○西部北

地域の方には, 快く受け入れていただいている。住民主体のなりたいきいき百歳体操については, すぐに定着するところと, そうでないところがある。当初はニュータウン地区だけであったが, 豊住・八生地区についても, 広まりつつある。

○中央

高齢者クラブの活動の場などに出向いているが, 色々な情報を聞かせて欲しいという前向きな声を多数いただいている。いかに分かり易く説明するかが課題だと感じている。要望をいただいている場についても, 積極的に訪問したいと考えている。

○西部南

小地域ケア会議を各種サロンの終了後に開催し, 地域に出向くこととしている。地域の課題を民生委員, 自治会, 介護支援専門員等の地域の方と共に考えることは非常に有益であり, 今後は, さらに幅広く, 高齢者クラブ, 住民主体の活動の場などにも積極的に参加していきたいと考えている。

○東部

今年度は, 圏域内のなりたいきいき百歳体操を行っている3グループに地域ケア会議の声掛けを行ったが, いずれも快く受け入れていただいた。待っていても中々人は集まらず, 自ら入っていくことが重要だと実感したため, 今後も同様のアプローチを推進していきたいと考えている。

●委員

地域の側が前向きに受け入れてくれているようで安心である。「連携」、「現場に出向く」ことに関して、センターと受入れ側との仲介など、行政側の支援の必要性も高いと感じたので、協力をお願いしたい。

●委員

先日、公津地区の高齢者クラブを対象に認知症に関する地域ケア会議を行っていたが、とても有意義であった。民生委員、社会福祉協議会等の関係機関はもちろんだと思うが、高齢者クラブなどの地域の一般の方々にも幅広く行っていたけると効果的だと思う。

お散歩カフェについて、行ってみたいが交通手段がないといった話が多く聞こえてくるため、その点を解決できるとよいのではないか。

●委員

センター運営実施方針にも公正性及び中立性の項目があるが、居宅介護支援事業所については4月から、重要事項説明書に複数事業所の説明を受けた上で居宅サービス事業所を選択したという記載をしないと減算となる（運営基準減算）。おそらく介護予防支援についても同様だと思うため、事業計画に記載すべきではないかと感じた。

（確認の結果、介護予防支援の運営基準に同様の義務付けがなされることとなる。なお、介護予防支援には、運営基準減算という仕組みがないため、減算はない。）

また、4月から認知症初期集中支援チームがスタートするのであれば、事業計画で記載すべきではないかと感じた。自らの経験からも、実際のチームの運用では、医療等につながっていない支援困難者等の対応に果たすセンターの役割が大きいと感じている。

余談だが、千葉県は虐待の件数が多く、施設における身体拘束に関する研修の開催等についても4月から厳格化がなされている。虐待は施設だけで行われるものではないため、虐待対応に関する項目を事業計画の重点項目としてもよいのではないかと感じた。

●委員

中央地域包括支援センターの事業計画のうち在宅医療介護連携の推進の項目で、千葉県医療介護連携シートの活用を進めるという記載があったが、現状の活用状況は。

○中央

これまでは基本情報シートなどの既存の帳票で対応してきたため、今後改めて千葉県医療介護連携シートの活用を進めるという趣旨で記載した。

●委員

他のセンターも同様の状況という理解でよいか。

(各センターの管理者がうなずく。)

次に、西部南地域包括支援センターの事業計画のうち在宅医療介護連携の推進の項目で、地域の医療介護機関の地域資源マップの作成という記載があるが、この機関には歯科医院も含まれるという理解でよいか。

○西部南

そのように考えている。

●委員

それぞれのセンターの地域性が出ていると感じた。計画には多岐に渡る項目が盛り込まれているが、現状の人員体制で問題はないか。事業計画の実行について、センターと行政とで共通認識ができているか。

○東部

年度内の集いの場の立上げ、これは認知症カフェを想定しているが、この立上げについては、まずは下総地区で1カ所を目指している。

東部圏域はエリアが広いため、職員を1人増やしてもらえると余裕が出るというのが率直な感想であるが、例えば地域ケア会議については、市マニュアルで毎月1回の開催を求められているところ、圏域の特性を考慮し、年6回の開催とさせていた。このように、事業計画の数値目標については、現実的な目標とするなど、現状の人員体制を前提に市職員と議論しながら工夫した。

○西部南

例えば、認知症施策の推進については、新たに認知症サポーターのフォローアップ研修を企画している。サポーターは増えてきているが、今後はサポーターの方々が活躍できる場を創出するため、お散歩カフェや新たなカフェなどにボランティアとして参加できるような連動する仕組みを推進していきたい。

○中央

中央圏域も東部圏域と同様にエリアが広いため、マンパワーの不安がないわけではない。しかし、地域のボランティアが主体となり毎月開催している認知症カフェは、ボランティアの動きが広がりつつあり、地区社会福祉協議会の協力も得られるため、活動自体が成長してきているという実感がある。また、三里塚コミュニティセンターとの協働も進めており、事業計画に沿って前向きに取り組みたい。

○西部北

本所・支所があるため、講演会等のイベント時などには、職員を融通しながら対応しているが、総合相談支援業務などでは、人手不足感はある。事例検討会などの数値目標については、高目の目標ではあるが、実現可能だと考えている。

○高齢者福祉課長

人員配置については、不足感があることは承知しているが、平成30年度と平成31年度に、西部南地域の分割、東部圏域と中央圏域の再編によって、人員配置についても配慮することとしたい。

②指定介護予防支援業務・第一号介護予防支援事業の一部委託について

●副会長

議題（1）②について事務局から説明を。

○西部北，中央，西部南，東部の順で資料に沿って説明。

●副会長

詳細については、資料で確認していただくこととする。

③地域包括支援センターの業務評価について

●副会長

議題（1）③について事務局から説明を。

○高齢者福祉課長から説明。

●副会長

質問は。

（発言なし）

（2）地域密着型サービスの運営等に関すること

●副会長

事務局から説明を。

○介護保険課長から説明。

●副会長

質問は。

（発言なし）

条例の整備もあるということでよいか。

○介護保険課長

居宅介護支援事業の指定基準を定める案件などが条例である。

また、介護保険料の改定に伴う条例改正もある。

●副会長

朝刊に介護保険料の上昇に関する記事が掲載されていたため、確認した。

ほかに質問は。

(発言なし)

以上、全議題を終了し、マイクを事務局へお返しする。

〈議事終了〉

6 その他

○高齢者福祉課及び介護保険課の執行体制の見直しについて、高齢者福祉課長から説明。

7 傍聴

なし

8 次回開催日時 (予定)

平成30年7月